

地域づくりインターン事業

7月26日から8月14日にかけて、地域づくりインターン事業が行われ、首都圏を中心に4名の大学生がインターン生として、本町で農業体験や地域での聞き取り取材などを行いました。そのインターン生の声を2号にわたって紹介します。

このインターン事業に対して、受け入れ家庭をはじめ町民の方々に多大なるご協力をいただき、この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

安西 美咲さん (派遣期間：8月1日～8月14日)

鹿児島島の第一印象はまさに「緑」。錦江町に着くと山だけでなく、海が見えるきれいな町でその景色に感動した。私を受け入れてくださる家庭は宿利原地区にあるとのこと。車でどんどん山の奥へと進んで行き、海も見えなくなった時は正直不安でいっぱいになった。しかしそんな不安も吹っ飛ばすほどの絶景。山の上から見る海にはオレンジの夕日が輝いていて、思わず笑顔になってしまうほど綺麗だった。

初日からこんな素敵な体験をさせていただきました。これからどんな2週間が始まるのか、不安もありましたが期待のほうが大きかったです。今回の2週間は私にとってとても濃い時間となりました。まず、いろいろな方との出会い。錦江町の方々は本当に素敵な方ばかりで、お酒の場で冗談(ギャグ?笑)が尽きないのには一人圧倒されていたと思います。みなさんのテンションについて行けたか自信はありませんが…本当に楽しかったです。ただ、ひとつ心残りがあります。そう、鹿児島弁です。2週間で習得することは難しいとわかっていましたが、なんとなく意味はわかるくらいにはなるだろうと甘い考えでやってきました。しかしほとんどわからず。悔しいです!でももちろん覚えた言葉もあります。「見て!わっぜえ、よかにせ!」東京で使わせていただきます。いや、使わせていただいております(笑)もちろんこのような楽しい体験ばかりさせていただいたわけではありません。しっかりと仕事の厳しさも学ばせていただきました。例えば、雨が降ってしまい予定していた仕事ができないなど、自然に左右される農業の大変さを学ばせていただきました。また実際に仕事を体験させていただいたのですが、想像を超える重労働。1日やっただけでも筋肉痛になりました。この仕事を毎日休まずやっているお父さんとお母さんを本当に尊敬します。



受入家庭の宿利原さん家族と



インターンの仲間たちと

私はこのインターン中に20歳の誕生日を迎えました。正直、行く前は少し後悔していました。しかしお父さんお母さんを初め、各受け入れ家庭のみなさん、役場の方々、本当にたくさんの方がお祝いをしてくださったり、こちらで様々な体験をさせていただくうちに私は幸せ者だなと思うようになりました。記念すべき20歳の誕生日をこの錦江町で迎えたことを本当に誇りに思っています。この2週間、一言で言い表すならば「感謝」です。みなさんとの出会い、幸せ者だと感じさせていただいたこと、この長くて短かった2週間に感謝。ありがとうございました。